

令和元年度第3回白河市子ども・子育て会議 会議録

日 時： 令和元年10月30日（水） 午後6時

場 所： 白河市産業プラザ人材育成センター 研修室

出席者： 岡崎菜津子委員、飯村庄后委員、鈴木順子委員、佐藤晃子委員、
田中晋哉委員、樋口葉子委員（会長）、永野美代子委員、國井保子委員、
浅賀秀寿委員（9名）

●令和元年度第3回白河市子ども・子育て会議

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議

(1) 子ども・子育て計画の進行管理について

事務局より、子ども・子育て計画の進行管理について説明。

(2) 第2期子ども・子育て計画の策定について

事務局より、「第2章 子ども・子育てをとりまく現状」及び「第3章 計画の基本的な考え方」、「第5章 量の見込みと提供体制」について説明。

委員：20ページの「教育・保育事業を利用したいが、事業に空きがない」と回答した方は、潜在的な待機児童か。

事務局：回答した方が保育事業を利用できるかの分析は含まれていないため、全てが潜在的な待機児童とは捉えていない。

委員：31ページの「保育の必要性を認定する基準」は10あるが、市のホームページでは8までしかなく、整合性が取れていないのではないかと。

事務局：「虐待やDVのおそれがあること」については、ホームページには掲載していないが、「その他市長が認めるとき」に含まれており、そういった相談があった際は適切に対応している。

委員：会議資料を公表するとき、この部分は整合を図るのか。

事務局：会議資料を整理し、整合を図っていく。

委員：保育園に空きがないため、求職活動ができないという声を聞く。こうした保育ニーズについては、どう考えているのか。

事務局：待機児童が出ている状況なので、求職活動をしている人より、就労している人を優先して認定している。求職活動の際は、市の一時預かり事業を活用していただきたいと考えている。

委員：ひとり親世帯が保育園に預けられない状況については、どのように解消していくのか。

事務局：ひとり親世帯は、保育認定する際の優先順位を高くして対応している。

委員：保育認定の優先順位の開示はいつ保護者にしているか。

事務局：優先順位を決めるのにポイント制を採用しているが、公表はしていない。ひとり親世帯であればポイントが高くなるので、優先順位は高くなる。

委員：求職活動は、保育の認定基準に入るのか。

事務局：入っている。求職活動をしている方が入園した場合、仕事が見つからないこともあるため、3ヶ月以内という基準を設けている。

委員：白河市ではないが、県外から転入して来た母子家庭で、求職活動をしているが、保育園の入園をお断りされたという話がある。

事務局：本市では、入園ができなくても、一時預かり事業を利用することができる。その自治体ではそういった事業を実施していないと考えられる。

委員：供給量は、どのようにして算出しているのか。

事務局：前回の会議で示した見込み量にどのように応えていくかが供給量となっている。供給量は、幼稚園等の施設については、定員数で示し、明確な定員数等がない事業については、見込み量に対する供給値で示している。

委員：養育支援訪問事業はどんな家庭が対象となるのか。

事務局：最近では、保護者に精神疾患がある家庭への支援が目立っている。

委員：課題や基本指針が5年前と大きく変わらないことを市ではどう捉えているか。

事務局：5年前と比較して、市の施策によって良くなった部分、変わらなかった部分の分析は難しいが、子育て広場など様々な支援が広がった一方、新たなニーズも生じ、結果として、大きくは変わっていないと解釈している。

委員：幼児教育・保育無償化の影響で、1号認定から2号認定に変わる人も増えると思う。そのため、児童クラブの希望も増えると思うが、供給量は大丈夫か。

事務局：現時点では、この供給量で対応できると考えている。

委員：なかなか児童クラブに入れれないという話も多いので、心配である。

委員：子どもが二人いる家庭では出費が多いため、児童クラブを利用しないという声もある。金銭面での負担が大きいのではないか。

事務局：真に必要としている人が入れるように、児童クラブは有料となっているが、第2子世帯は半額、第3子世帯は無償となっている。小学校の中に児童クラブを建てることは難しく、学校側と調整して、空き教室を確保するなどが今後の課題である。

委員：児童クラブの支援員は、どのようにして確保しているのか。支援員は精神的な負担が大きいという声を聞くので、支援員の人数をしっかりと確保していくことが必要ではないか。

事務局：基本的に資格がある方を採用しているが、資格がない方は研修等を受けていただき対応している。大きな学校は子どもの人数が多く、最近では、支援が必要な子どもが増えていて、支援員の負担は増えている。市では、支援員を随時募集しているが、なかなか集まらない現状にある。

委員：支援員が少なく児童クラブに入れれないということはないか。支援員の待遇を改善することも人材を確保する方法ではないか。2号認定の方が小学校に入学した際に、児童クラブに入れれない方が出ないようにしてほしい。

事務局：児童クラブでは低学年の児童を優先的に受け入れているため、条件が合えば入れれないということはないと考えている。一方で、高学年の利用が増えたことで、待機児童が発生した学校もある。

委員：無償化の影響により、利用料を負担して幼稚園の預かり保育を利用する方がいいのか、保育園の方がいいのかという声がある。

事務局：募集は、保育園と幼稚園で別である。保育園の申込は、民間の保育園も含めて、市で入園の調整をしている。幼稚園の申込は各園で受け付けている。

事務局：金銭的な部分ではなく、幼稚園・保育園は持っている機能が違うため、そのことを踏まえて、保護者に選んでいただきたいと考えている。無償化は始まっ

たが、入園の募集を行っていて、今のところ大きな動きはない。

委員：無償化の影響について、幼稚園や保育園の入園者は市で把握できるのか。

事務局：人数的にどう変わってきたかの傾向は把握できるが、個別にどの園に行ったかの把握は難しい。中には、幼稚園・保育園を併願されている方もいるので、最終的には、保護者がどこの園を選ぶかによる。

委員：熊田学園の認定こども園はどこにできるのか。

事務局：西三坂にできる予定である。時期は令和3年である。

4 その他

「児童家庭支援センター」について説明。

5 閉会